

平成29年度 経済環境委員会（前期） 行政視察報告書

1. 視察日程 平成29年7月3日（月）～7月4日（火）

2. 視察先及び視察内容

- (1) 長野県松本市（7月3日）
街なみ環境整備事業について
- (2) 岐阜県高山市 株式会社 焼岳すっぽん（7月4日）
新規産業の開拓について
- (3) 長野県諏訪市（7月4日）
中小企業振興基本条例について

3. 参加者

委員長	<u>本多 丞次</u>		
副委員長	<u>菅沼 芳徳</u>		
委員	<u>杉山 護</u>	<u>黒澤 佳壽子</u>	<u>勝間田 博文</u>
	<u>平松 忠司</u>	<u>高橋 利典</u>	
当局職員	<u>勝俣 昇</u>	（ <u>産業スポーツ</u> 部長）	
事務局	<u>滝口 拓樹</u>	（議会事務局議事課主事）	

4. 視察先対応者

松本市	<u>環境政策課 桐澤課長</u>
	<u>環境政策課 西山課長補佐</u>
	<u>環境政策課 寺島係長</u>
高山市	<u>株式会社焼岳すっぽん 石田氏</u>
諏訪市	<u>商工課 金子雄二課長</u>
	<u>商工課 茅野貴之主任</u>

5. 視察内容

■ 『街なみ環境整備事業について』

平成29年7月3日（月） 10:30～12:00

《視察研修の目的》

世界中から多くの方が来ている世界遺産富士山の麓の御殿場市は、街なみ景観計画で環境整備、開発が進んでいる。特に駅周辺などでは、無電柱化を含めた都市整備が事業計画進行されている。松本市は「歩いてみたい城下町整備事業」として国からの補助金を活用しながらまちづくりを進めており、街なみ環境整備事業先進地である松本市の施策、事業展開を参考とし、知識を得て当市に反映させたい。

《視察先の概要》

項目	単位	松本市	御殿場市	倍率
面積	km ²	978.5	194.9	5.0205
人口	人	240509	89132	2.6983
人口密度	人/km ²	245	457	0.5361
世帯数	世帯	104307	36533	2.8551
一般会計歳出	億円	894	356	2.5112
決算額	万円/人	37.1	39.9	0.9298
財政力指数		0.71	1.02	
高齢化率・・・	26%			

市の概要

長野県のほぼ中央に位置し国宝である松本城をシンボルとした城下町

岳都(山岳)・学都(学問)・楽都(音楽)の「三ガク都市」を標榜するまち

《視察内容》

松本市が進める都市戦略を五つの地区ごとのコンセプトにより整備している現状の説明を受け実際に整備している街並みを視察する。

I.中町（蔵のある）まちづくり事業…昔ながらの蔵造りを活かしたまちづくり
中町蔵の開館を建設、電柱地中化、道路美装化の推進

II.お城下町まちづくり事業… 明治以降に整備された商店街の魅力再生
下町会館建設、旧役所を公共住宅として再生、道路美装化

III.お城東まちづくり事業…夜の飲食街、娯楽のまちとしての魅力整備
鯛萬の井戸小公園整備、道路美装化

IV.中央東まちづくり事業…湧水など水源と文化施設を活かしたまちづくり
源智の井戸整備、道路整備、空き地の有効活用(駐車場等)

V.お城周辺地区まちづくり事業…松本城を中心としたまちづくり
オフィス街から住宅街まで混在している地域の街並みをお城の雰囲気をお城の雰囲気をお城の雰囲気をこわさず整備する

まちづくりのコンセプトをしっかりと持ち その街の特徴を生かして推進していくことが重要。無電柱化をすすめ景観の配慮、安全面の確保を行うことは発展する街並み整備には欠かせない事業である。その事業は市民の意識、生かす工夫・知恵・協力性は必要不可欠である。

《考 察》

まちづくりのコンセプトをしっかりと持ち その街の特徴を生かして推進していくことが重要。

無電柱化をすすめ景観の配慮、安全面の確保を行うことは発展する街並み整備には
欠かせ

ない事業である。その事業は市民の意識、生かす工夫・知恵・協力性は必要不可欠である。

■ 『新規産業の開拓について』

平成29年7月4日（火） 10:30～11:30

《視察研修の目的》

世界三大珍味のキャビア（チョウザメ）の養殖について視察し、富士山の湧水で飼育したキャビアを御殿場で地場産品化できないかを検証する。

《視察先の概要》

項目	単位	高山市	御殿場市	倍率
面積	km ²	2177.6	194.9	11.173
人口	人	89413	89132	1.0032
人口密度	人/km ²	41	457	0.0897
世帯数	世帯	35444	36533	0.9702
一般会計歳出	億円	463	356	1.3006
決算額	万円/人	51.8	39.9	1.2982
財政力指数		0.52	1.02	

《視察内容》

飼育現地視察を行いながら様々な質問をした。また、視察後養殖魚の身とキャビアを食した。

質問事項 養殖に取り組む背景・・・近所の魚の養殖場の廃業に伴い施設を買いその利用を模索する中、チョウザメの養殖に着手した。

成育年数・・・種類にもよるが4年から20年。稚魚は茨城県から仕入れている。また、他のチョウザメ業者から安く譲り受けている個体もある。

飼育管理・・・病気に強く年間飼育経費、人的経費はさほどかからない。湧水温泉を利用している。

出荷先の確保・・・親会社のホテルで提供しているが日本人になじみがないため都市の販路確保に努力している。

事業採算・・・事業開始し11年経過しているが採算は取れていない。あと数年で採算ベースになる可能性はある。

《考 察》

チョウザメというブランド力と富士山の湧水で育ったキャビアに期待をしましたが、平均10年間の飼育期間を要すること、庶民の口には馴染んでいないこと、資金に余裕が無ければ事業化は困難であると感じました。飼育にチャレンジする企業が名乗りをあげることに期待したい。

■ 『中小企業振興基本条例について』

平成29年7月4日（火） 15:00～16:00

《視察研修の目的》

"御殿場では中小企業家同友会が中心となり、「中小企業振興基本条例」の制定を目指した研究が行われている。本委員会としても昨年から、研究会に出席し調査研究を行ってきた。諏訪市では、平成12年に理念型の「中小企業振興基本条例」を制定していることから、全国でも早い時期に制定に至った経緯や条例の有用性、条例が市の経済に与えた効果などについて研修し、本市における条例化検討の参考としたい。

《視察先の概要》

項目	単位	諏訪市	御殿場市	倍率
面積	km ²	109.2	194.9	0.5603
人口	人	50121	89132	0.5623
人口密度	人/km ²	456	457	0.9978
世帯数	世帯	20542	36533	0.5623
一般会計歳出	億円	202.9	356	0.5699
決算額	万円/人	40.5	39.9	1.015
財政力指数		0.75	1.02	

長野県のほぼ中央、諏訪湖の東南一帯に有している。温泉が湧出し霧ヶ峰、蓼の海の景勝地は四季を通じて観光客が訪れる。

戦後より精密技術産業が発展し現在は多くの精密工業が根付いている。

《視察内容》

諏訪市中小企業振興基本情報条例が2000年に制定され、それ以降どのように活用、反映されているか その取り組みについての研修を行った。

制定の背景・・・商工業の振興に係る条例を制定し市の姿勢を示す。他市条例を参考にした。

制定の効果・・・以前より具体的な施策の取り組みをしていたため効果よりも理念である市の姿勢を示すことに意味がある。審議会については工業振興審議会・金融審議会を年2～3回程開催している。

条例制定における問題点・・・理念条例であり問題点はない。

《考 察》

早くから中小企業振興基本条例に取り組み始めた諏訪市の視察を通して、その条例を制定することの有用性や効果を確認しようとしたが、制定から長く経過しており、当時の背景や経緯を詳細に聞くことはできなかった。また、効果については、市が行っている施策をひとまとめにし、「市の姿勢」を示すという意味で一定の効果があるとのことであった。当市においても現在、どのような条例がありどのように機能しているのか検証することは必要である。

以下、視察先ごとに記載する。